

## 第2回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和元年8月22日(木) 午後1時30分～午後3時55分
- 2 会 場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 伊藤宏会長、岡野誠委員、菅野廣男委員、木下真理子委員、齋藤美佐委員、高橋満彦委員、高橋理里子委員、高谷理恵子委員、西内みなみ委員、三宅祐子副会長、安田信二委員、渡邊博美委員
- 4 欠席者 菅野孝志委員
- 5 内 容  
○第2回懇談会(司会:政策調整課長)  
(1)開会  
  
(2)会長あいさつ  
次第から分かるとおり、報告事項が非常に多い。なるべく議論・意見をいただける時間を確保したいので、ご協力をお願いします。  
  
(3)議事(議長:伊藤会長)  
①第1回懇談会の振り返り  
議 長 事務局に説明を求める。  
  
事 務 局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】(パワーポイント)P3～P8)  
  
議 長 意見書を提出していただいた委員の皆様から補足説明等がありましたらお願いします。  
(特になし)  
  
議 長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。  
(特になし)

## ②福島市の現状

議 長 事務局に説明を求める。

事 務 局 項目ごとに説明する旨伝える。現行総合計画の進捗状況について、資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】(パワーポイント) P 9～P 13)

議 長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

議 長 P 12の「2女性が活躍できるまち」、「4活力あふれるまち」について、D評価が多い。なかなか進んでいない原因がどの辺にあるのか、例えば財政的なものなのか、あるいは市の力では何ともならない外的要因があるのか、進捗率を抑えている原因について、簡単にお話いただきたい。

事 務 局 現行総合計画(後期基本計画)における指標の進捗状況(資料1)により説明。

議 長 今ほどの説明も含めて、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

委 員 評価の進捗率について、0.0%は何もしていないように見える。ただ、実際には何もしていないわけではない。進捗率、評価の設定がきついのではないか。

事 務 局 本市において、施策評価は今年度より実施した。その手法については、他市・他県の状況を踏まえて決定している。本市の評価方法について、資料により説明(現行総合計画(後期基本計画)における指標の進捗状況(資料1) P 1)。評価の手法は様々であるが、本市としては、5年間でどのくらい伸びていくのか意識する必要があるということで、今年度はこのような評価をさせていただいた。本日の意見について、施策評価を所管する総務課にも申し伝えたい。

議 長 その他いかがですか。

委 員 評価については、厳しいものもあるが、計画策定時の値、実績値、目標値が載っているので進捗率0.0%と出ても、その意味を考える余地はあると思う。

進捗率0.0%は衝撃的な値。現在の目標値については、修正できないと思うが、次に目標値を作るときに、どこに目標を定めるのか、努力が挫けない目標値の作り方が大事だと感じた。

「いのちを大切にすまち」、「女性が活躍できるまち」という形でグルーピングされており、そのなかで、割合で表現されている。「いのちを大切にすまち」のなかでも項目が様々で、「いのちを大切にすまち」ではなく、むしろ「女性が活躍できるまち」に入れたほうがいいのではという項目もある。中身や担当課も様々であり、グルーピングすることの意味がどれくらいあるのか一つ心配である。

A評価・D評価を見ると、指標名で並び替えてグルーピングし直すと、もう少し違う見方も出来るのではないかと思う。「いのちを大切にすまち」のなかに、D評価でなりすまし詐欺被害認知件数のほか、子育てに自信が持てない親の割合という指標名もあり、タイトルからすると、そこに入っていると思えないようなものがある。女性や子育ての指標で並び替えて見ると、また違うものが見えそうな気がする。このグルーピングだけでなく、グルーピングをなくした状態で並び替えて、もう一度何が出来ていて、何が出来ていないのか、A評価になったところが何なのか具体的に分かるほうが、強みが見えてくるのではないかと思うので、そういう分析も今後検討していただければと思う。

議長 その他いかがですか。

委員 「女性が活躍できるまち」のところで気になっていたが、資料1のP5小分類No.25・No.26もD評価と残念な結果となっている。女性の管理職登用が低いという話も含めて、女性というところが非常に強く出ていると感じている。市民アンケート結果を見ると、優先度が高く、満足度が低いところのトップに女性の就労支援の充実（子育て支援）がきてしまっている。

先程、議長から進捗率を抑えている原因が何なのかという質問があったかと思うが、説明いただいた内容は現象であり、原因まで至っていないのかなという印象である。満足度が低い、就職率が低い、女性の管理職登用が低い等起きているのは現象であり、起きていることの原因は何なのか、要因をきっちり把握し、分析していかないと、これから作っていく施策が、方向性が違ったものになってしまうのではと一つ感じている。

女性活躍ということは、どの市町村でも非常に頭を抱えていること、企業でも頭を抱えていることだと思うが、女性に活躍してもらうためには、そもそも男性の働き方を変えてもらわないと女性が活躍できないということが、全体の資料から見えてこない。この辺りをどのように市で考えているのか。

働き方改革関連法案が4月1日よりスタートし、長時間の労働を企業のほうで禁止しているが、業務量が減らず、持ち帰り残業、隠れ残業するようになってい等、男性の恒常的な長時間労働等いろいろな問題が表面化してきている。5日間の有給付与義務に関しても、休みたくても休めない現状のなか、休めと言われ

ることの社員の負担も非常に問題になっている。今まで企業の戦力として働いていた男性社員の方が、長時間労働していることで、家庭参画をまったくしていなかった。でも、今、女性が子どもを産み職場に復帰してください、できれば管理職に就いてください、将来の介護もあるから大変ですよと、男性は結婚しても働き方は変わらないが、女性にはどんどんプラスになってしまう。女性は結婚すると状況がどんどん変わってしまう。本人の意思もあると思うが子どもを産んでほしい、キャリアを考えると産む時期も限られ悩んでしまう。不妊治療でも問題になっているが、産める時期は限られているため、ほしいと思ったときには間に合わないこともある。医療の手助けを借りなければならないが、それでも成功率は低い。男性の不妊治療認知も低い、というように全部繋がっている。ピンポイントで女性活躍、管理職といっても、繋がりのあるものをきちんと把握していただいて、それぞれに策を考えてほしい。たまたま女性活躍のところで話をしているが、全体的に今のような視点でご覧いただけたらいいのではないかというのが印象である。

議長 いろいろな項目があるが、市がどんなに頑張っても直接的に数値を上げられるものと、そうでないものがある。例えば、民間企業の女性管理職比率は、市がどんなに頑張っても、たぶんそんなに数値が上がるものではない。一方、待機児童を少なくしようというのは、市が頑張れば何とかなるものである。その辺の峻別をしていかないと、市がより効果を発揮できるもの、環境を整えることができるもの、そうではないが市民や企業にいろいろな形でお願いするもの、これらの方向性を示すというのは違うレベルのものだと思う。それを全部一緒に指標として並べると、いろいろなものが埋没してしまうという印象を受けた。

また、後で議論ができるので、次の項目に進みます。

議長 事務局に説明を求める。

事務局 福島市の人口推計及び社会指標分析について、資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】(パワーポイント) P14～P17、人口動向について(資料2)、第6次福島市総合計画の策定に向けた基礎資料社会指標分析結果(資料3))

議長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

委員 人口問題研究所の推計で2040年の推計値が出ているが、これに対して福島市では、これに従って将来像を描こうとしているのか、それとも市独自に人口減

少を緩やかなものにして、人口を高いところに設定してまちづくりを進めていこうとしているのか。

事務局 P14の資料では、社人研の数値しか出ていないが、福島市の総合戦略というものを策定し、そのなかで様々な施策をとることによって、人口の減少を抑えようと、平成27年度から今年度まで、まずは5年間ということで取り組んでいる。

国のほうでも、次期総合戦略の動きがある。年内には、国のほうでも次の戦略が出来上がるということであり、それを踏まえながら、市としても次の取り組みを検討していきたい。

委員 震災から8年が経過した。福島市からの自主避難者の住民票は、福島市に残っていると思う。また、飯舘村、浪江町からも福島市に新たに家を建て、居住されている方もいるが、住民票の異動はしていないと思われる。それを踏まえての人口動態になっているのか。

事務局 福島市から避難している方、福島市に避難されている方の数字について、避難者支援により数字は把握しているが、資料については、住民基本台帳の数字であり、住民票が置いてある数字になっている。

委員 そうなると、福島市の人口推計も若干異なってくる。市民税、市民所得、水道料金を含めた現実の姿で対応が図られるべきである。実際的には避難されている世帯数、福島市に避難している世帯数についても捉えた上で計画の策定をお願いしたい。

事務局 推計人口の捉え方については、平成27年度に実施した国勢調査が基本になる。住民票の有無に関わらず、福島市内に居た人数に住民票の増減を反映していったものが推計人口になるので、指摘された点について、ある程度は反映されたものになっているとご理解いただきたい。

議長 その他いかがですか。

委員 人口動態について、国や県、あらゆるレベルで人口の減少化は歯止めがきかないと思う。先日、総務省から発表された生産年齢に占める女性の就業率は、このところ上がってきている。福島市の女性の就業率と男性の就業率はどのような状況なのか。

国策、県の施策、市の施策で人口を増加させることは不可能だと個人的に思っ

ている。生産年齢人口に占める就業率の割合をどれだけ上げられるか、特に女性が低いので、働き方改革やワークライフバランス等でどうやったら就業率を上げていけるかが福島市の課題だと思うので、福島市の実情を教えてください。

委員 全国平均と福島県平均では、第2子・第3子がいる世帯は、経済力のある共働き世帯のほうが圧倒的に多く、片働き世帯は、子どもの人数が少ない。福島市で、その辺りのパーセンテージが分かれば示していただきたい。

そういったことを含め、女性の就業率という話があったが、まだまだ場所によっては男性が仕事、女性が家庭との感覚があると思うが、雇用形態も多様化されていて、世帯収入が低いということがあると、子どもを持つ・持たない、それ以前に男性の場合は結婚する・しないの問題が出てきてしまうので、総合的な視点から今後の展開を考えていただくのもいいのかなと感じている。

事務局 手元にデータを持ち合わせていないので、後ほどこの会議の時間内にお答えさせていただきます。間に合わなければ、後日回答する。

議長 その他いかがですか。次の項目に移りたいと思います。

議長 事務局に説明を求める。

事務局 市民アンケート調査結果について、資料により説明。(新しい福島市総合計画の策定に向けた市民アンケート結果のあらまし～市民が望むまちの姿へ～(資料4))

議長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

委員 P19に行政サービスと負担の関係が記載されており、負担が増えない範囲の行政サービスがよい37.2%、費用の負担が増えても、充実した行政サービスを受けたい9.6%とある。これは世相を反映していると思う。権利と義務は表裏一体のはず。37.2%というのは、片一方を完全に忘れている。自分の生活を守るためにある程度は負担しなければならないというのは、人間社会であるべき姿だと思う。一例を挙げれば、消費税。10%にするかしないかで非常に問題になっているが、スウェーデンでは社会保障・福祉を受けるために、20%の消費税は当然となっている。そのくらいの痛みを伴って初めて自分の将来が保障される。37.2%の人は、全然そういったことを考えていない。その辺をもう少し教育すべきである。

議 長 その他いかがですか。

委 員 P14の福島市に暮らす魅力について、自然の豊かさや豊富な農産物は魅力的であると日々感じており、他県の方にも褒められる部分である。

逆の見方をすると、子育てのしやすさや多様な就労先は数値が低く、子育てがしにくく、多様な就労先がないという見方ができるアンケート結果になっている。

先程の話にもあったように、市が頑張っって何とかできる部分と、市民や民間の力を借りないといかんともしがたい部分が含まれている。福島市も外部委託している事業もたくさんあるかと思う。一つ提案だが、だいたいは指名競争入札や一般競争入札という形をとっていると思う。手間だが、もう少しプロポーザルを検討いただきたい。本当にきちんとそれが履行できる、実行性のある提案ができ、本当に効果がある事業、つまり、効果のある公費の使い方をしてくれる業者を、きちんと委託先として見ていただくためには、プロポーザル方式を今以上に増やしていただくと、こういった課題の解消に向けたヒントがあるのではないかと思う。

事 務 局 ご指摘の点についてはよく理解できるところだが、道路を作る等同じ製品のものを作っても、高い・安いがある。そういった点で、競争力を発揮しなければならぬ部分と、企画力を争う、製品の完成度を争う等いろいろとあるので、担当部署は異なるが、検討させていただければと思う。

議 長 その他いかがですか。

委 員 P14の福島市に暮らす魅力について、あてはまるもの5つまで選択可と記載されている。そうすると、強みである自然の豊かさや豊富な農産物をどうしても選択してしまう。ないものねだりしても結果的には何も出てこないもので、本当に福島にはいいものがないのかというあるものを探す観点からすると、こういうアンケートの取り方よりは、魅力のあるものは全部書いてください、逆にこれだけは困っているということを見ないと、結果的に実態が反映されない。

資料1で女性の管理職登用率18%と記載されていたが、実際、そんなに数字が高くないように感じている。優秀・有力な組織でも、女性の管理職は10%にもならない。目指しているのが10%くらい。それが現時点で18%となっており、現状の掴み方に疑問を感じる。それを基に目標を立てると、数字が現実的でなくなってしまうので、その辺を調べていただけたらと思う。また、指標数が87と多い。もう少し絞り込みをして、正確な現状とこれからの目標を決めていただかないと、問題ばかりありすぎて何をしたいか分からないと思う。

議 長 次の項目に移りたいと思います。

議 長 事務局に説明を求める。

事務局 中期財政収支見通しについて、資料により説明。(中期財政収支見通し(資料5))

議 長 次に進めさせていただきたい思います。

### ③総合計画Yu-Me(ゆめ)会議の活動状況について

議 長 市民参画アドバイザーに説明を求める。

アドバイザー 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】(パワーポイント)P18～P21、総合計画Yu-Me(ゆめ)会議、参加者一人ひとりのキーワード(分類一覧))

アドバイザー 総合計画Yu-Me(ゆめ)会議に参加いただいた委員から名簿順で一言ずつお願いできればと思います。

委 員 1回目と3回目に出席させていただいた。3回目のシミュレーションゲームでは、最初は敷居が高いと思っていたが、参加者は部長になりきり、議論して、熱い時間を過ごしたのではないかと思う。

委 員 2回程参加をさせていただいた。若い方から高齢者まで110名以上の方が、熱心に討議されていたことに関心を持った。こういう会議の繰り返しが、これからの福島市のまちづくりには重要だと認識した。

委 員 全3回に参加し、グループのなかにも入った。参加者はすごく意見を持つてるといのが印象的。先程のアンケート結果に70%以上の方がまちづくりに関わりたいという意見があったのも、この会議の盛り上がりで反映されていると感じる。今まではこういう市民の意見を吸い上げていく機会が少なかった。先程、権利と義務の話があったが、主体性のなさから投げ出してしまう部分もあると感じるので、市民が主体的にまちに関わっていくいい機会だと思う。

また、Yu-Me(ゆめ)会議と有識者懇談会の温度差を感じた。Yu-Me(ゆめ)会議での議論はふわふわしている。観光やPRの話題が出ており、外に向けたものになりがちだが、有識者懇談会での議論は生活に即して、どうしていくかとい



うもの。しかし、実は話し合っていくと、一番重要に感じているのは本来の暮らしというところに最終的に行きつく。Yu-Me（ゆめ）会議も3回目になり、暮らしの部分が議論されつつある。

ごみ問題、交通に関心を持っている方が多いと感じた。また、大きい箱物はいらぬという意見もあった。

委員 参加者の多さに驚いた。福島市の協働指針の見直しから関わってきているが、20数年経って協働指針が根付いて、ここまで結果を出したのかなということに胸をなでおろしたところ。指針の結果として、先程のアンケートも、市民と行政が一緒になって進める66.8%、まちづくりに参加したい73.9%と、人のよさがアンケートのなかにも特徴的に皆さん支持している。福島市はそれだけ素材・素質を持っているので、みんなで本気になって取り組めば、明るい未来が見えるし、実現できるのではないかと思う。

グルーピングの構成バランスが、学生から世代間を超えた形と、そこに行政の方が必ず入るというバランスが非常にベストマッチであった。

参加した皆さんについては、ここで暮らすという当事者意識を非常に高めた効果的なワークショップだったのではないかと感じた。当事者意識の高まった皆さんからの意見が反映されて、行政サイドで課題はこれではないかと思っていることが、実は市民ニーズや課題意識とずれがあるということが、ワークショップを通して浮き彫りになって、課題の再設定の機会になればなおいいし、それがまた事業化していくことで課題が解決していくことを非常に期待できるワークショップだと思う。

委員 3回目の前半部分だけ参加させていただいた。大学でも似たようなワークショップを頻繁にやっているが、一つの授業を作るのに5、6倍以上の準備をしなければならない。ただこれは10倍以上準備をしているという感じ。人員の配置、様々な取り組みの提案内容の質の高さといい、計算しつくされ、事前準備しつくされ、関わった人達がよく学ばれているワークショップだと大変興味深く感じた。

一見残念なのは、先程のアンケート結果の課題。例えば、子育て支援が非常に手薄である福島市、女性の就業率が低い福島市、この課題をここに参加している方達がなぜ認識していないのか、すべてのグループを回ったが、どこからも発信がないので、もしかしたら参加している人のなかに、実際に子育て最中の保護者の方がいないのではないかと危惧を感じた。身近には2人目が産めないと悩み苦しんでいる世代がたくさんいるのに、これがYu-Me（ゆめ）会議の席で、誰も言葉として発せられないのはなぜか。現実には市民として生きている私の感覚とYu-Me（ゆめ）会議の内容とは、アンケートのほうが、リアリティがあると実感した。

委員 1回目の前半だけ参加させていただいた。年齢層、男女、高校生からお年寄りまで、しっかりと一つのグループが一家族のように分かれていて素晴らしかった。それから、行政のこれに取り組む姿勢が素晴らしいと思った。私たちが危惧している交通・アクセス問題が、このなかに出てきたことがうれしかった。福島市は非常にやさしいまち、市民に対して非常に心遣いをしているまちということをお皆さん思っているはずだが、これからもっといいまちにしようという心強いエネルギーを感じた。

アドバイザー 参加いただいた委員の皆様ありがとうございました。また機会があるので、時間がありましたら、覗きにきていただければと思います。

第4回目では、第2回目のときに出てきた「うまぐねえ」と「いいない」を分析したものからテーマをいくつか設定し、そのテーマに関して関心のあるものを深掘りしていく形で進めていく。市民アンケートのなかで拾い切れていないものがあるとすれば、数は少ないかもしれないが、大事なポイントとしてそれをテーマ設定させていただいて、そのなかからいくつかのものをカテゴライズさせていただきたいと思う。その時にどういう数がそこに寄ってくるかということも、属性に左右されるということもあるかと思うが、ある程度の投票行動的な関心ということに繋がると思う。

第5回目は、未来の新聞という、新聞作りを通じてビジョンにこれを繋げていければと考えている。

議長 アドバイザーはいろいろなところで講演をしていると思うが、個別具体的なことではなく、福島市でやったことの印象、他の地域との違い等感じたことがあれば教えていただきたい。

アドバイザー 一番印象的だったのは、ワークショップが始まる前に、自然と自己紹介が始まったこと。それはたぶん、事務局がいろいろと工夫をし、迎える体制を作り、少しでも緊張を和らげるような雰囲気を作っている結果だと思っている。かなり参加者に支えられていると思っている。参加者は優しさや明るさは確実に持っているが、どこかに自信を持つ瞬間や、何か発信するということで主をもう少し明らかにすることが大事になるのではないかと見て感じている。たぶんその出番を待っているのか、きっかけを待っているのかと感じている。これだけ手が挙がってきている、参加率が高い、継続されている方が多い、職員も違和感なくワークショップに入れていることはいい関係性だと思っている。非常にマイルドな印象を持っているので、伸ばせるという感覚を私のなかでは持っている。

議 長 福島大学の経済経営学類と東邦銀行で地域戦略研究会というのを12年やっている。今年のテーマは、「福島の良いところ・悪いところこれからの福島って」であり、学生がこれに一定のテーマを決めて、最終的に12月に公開で発表するということをする。最終的に学生が3つグループに分かれてテーマを決めた。一つは交通、もう一つは観光・娯楽、もう一つは教育である。

PR不足は12年研究をしていて、いつも出てくる話である。なぜかという、福島にはいい資源はあるということは皆認識している、ただそれをうまく外に発信できていない。これは、東北人の奥ゆかしさというのかは分からないが、いつも出る話題かなと思った。

アドバイザー 引き続き見守っていただければと思います。

議 長 次に進めさせていただきたいと思います。

#### ④「将来構想」及び「基本方針」

議 長 事務局に説明を求める。

事務局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】(パワーポイント) P22～P23)

事務局 先程質問のあった就業率に関してだが、最新のデータが平成27年度のものになる。女性の就業率が46.4%、男性の就業率が64.1%となっている。参考になるが、女性の就業率に関しては、いわき市が42.8%、郡山市が46.5%である。県内の中核市で見ると、郡山市とほぼ同じ、いわき市よりは高い就業率になっている。

議 長 これから、「将来構想」や「基本方針」について提言をしていくこととなるが、今までの事務局の説明、市民参画アドバイザーの説明で何かご質問・ご意見がありましたらお願いします。

委 員 資料4のP15についてだが、安心・安全なまちづくりのなかで、放射能の問題は除けない大きな課題だと思っている。アンケート結果の放射線による健康不安のなかには、自主避難者の声は入っていないという部分もある。福島市からの自主避難者は、なぜ福島市に戻らないのか掘り下げて調べてほしい。

放射線による健康不安も、心配はないがまだまだ払拭できていない。行政として、市民が理解できるようもう少しPRに力を入れていただきたいと思う。

また、資料1の現行総合計画（後期基本計画）における指標の進捗状況についてだが、渡利地区を見ても、後継者がいないなかで優良農地には家が建ってしまった、農振農用地域については全部というくらい山になってしまった、そういう状況のなかで、P9にある指標名で農用地の利用集積面積の評価がAになっている。これは、ある一部分しか切り取っていない、後継者の育成も含め全体の農業の実態を捉えたなかで施策を進めていくべきである。

もう一点は、河川の改修も含め、自治振興協議会で多くの社会資本整備の要望がかなり挙がっているなかで、資料1のP12にある指標名で道路改良率の進捗率が、60%でA評価になっていることに疑問を感じる。

自治振興協議会から挙げた内容を十分理解、掌握していただきたい。

議長 その他いかがですか。

議長 放射線問題、原発事故問題について、昨日ニュースを見て悲しい思いになったが、韓国が福島の野球開催でオリンピック選手の安全性を確保できないのではないかと疑問を呈した。裏には日韓問題があるが、そういうふうに見られている。それは国際的な問題だけでなく、国内も同じ。科学の問題と心の問題は一致しているわけではない。科学的には大丈夫でも、心としてはなかなか難しいということもある。その辺りも含めてケアしていかないと、完全に払拭することはできないと思う。

議長 その他いかがですか。

委員 福島では放射線量に関するニュースが流れるが、隣県である栃木県や宮城県では、話題にもならない。隣県でもそういう状況。ましてや日本全国の方々は福島のことを忘れてしまっていると思っている。

震災からまだ8年しか経っていない、苦しんでいる方々がたくさんいるということを、メディアを通して定期的に情報発信していくべき。

議長 その他いかがですか。

委員 高齢者の運転免許証返納後の生活（移動）問題は、10年前からの案件であり、文化団体もそのことで先細りしていつている。

福島市には、高齢者の無料乗車があるが、皆が恩恵を受けているわけではない。

これからを考えると、若い人よりも高齢者が増える。駅前をいくら整備しても、高齢者がまちに出てきてもらわないと意味がないと思う。

議長 この問題は、これから非常に大きな問題。交通事故の問題もあり、免許証を返納しなければならない。でも、生活もしなければならない。病院、買い物を中心になるかと思うが、その辺をどう確保するかというのは非常に大きな問題である。

委員 母が足に障がいがあり、リハビリのため病院に通っているが、高齢になり、マスコミ報道を見て、免許証返納について考え出した。病院に通うためには、運転しなければならない。タクシーだと費用がかかる。市のケアワーカーに相談したところ、介護保険を利用するより、タクシーを利用するほうが安いとのことだった。贅沢で使いたいわけではないが、免許証を返納するタイミングについて非常に悩んでいる。近所にも同様の方がいる。

高齢者の運転免許証返納後の生活（移動）問題は、今後、大きな課題になると感じている。

資料1のP12のNo.30雇用関係について、先程の女性の就労支援や一般的な雇用の機会もそうだが、求職者のほうが大きく取り上げられていると感じている。実際、福島市の企業だと、マンパワーがいなく、人が採用できないということの相談が圧倒的であり、離職率に歯止めがきかない。ここから見えてこないだけで、総合戦略にはしっかりあるのだと思うが、企業に対しての支援がないと、いいマンパワーを送りこんでもそのマンパワーが定着できないと相談を受けている。

日本生産性本部の一番新しいアンケート調査だと、新入社員の男性の80%が育児休暇と取りたいという希望を持っている。育児休暇を取りたいと言ったときに、大企業はいいが、中小企業で取れる企業がどれだけあるのか。だいたい上司に、男が家にいても役に立たないと言われるのが現実である。そうすると、ここでは育児休暇を取ることは難しいと簡単にやめてしまうということもある。

使える制度があっても、使える風土がないと意味がない。企業に対してもう少ししっかりと啓蒙活動をし、今の若い方のニーズがここにあるということ伝えていただいて、受け皿の強化をしたところに就労支援という形で今のマンパワーを送り込むということが、定着率の向上に繋がる。その辺りを両輪で出していだけると、企業の課題も求職者の課題も解決に近づけることができると感じている。

議長 その他いかがですか。

委員 女性の就労問題等を含めて人口減少といったときに、高齢者の活躍は重要になってくると思っており、高齢者の就業率が高いことは評価できる。高齢者が社会に参加する上で交通問題が重要だということは、Yu-Me（ゆめ）会議のなかでも強く感じたところである。

ふくしま新ステージ有識者懇談会【第2回】（パワーポイント）P 4にオリンピック・パラリンピック、NHK連続テレビ小説「エール」とあるが、これらは意外と前に出がち。観光とは一つの産業でしかなく、これらは一過性のもの、起爆剤でしかないものである。それに対して新ステージに向けた舞台が整うということに、現実味のないところに議論されていることに対し、もどかしさを感じている。これをきっかけ、機会として、交通の整備や予算が付く等起爆剤の一つとして生活が整うための課題解決の手段であるとした上で、Yu-Me（ゆめ）会議でも議論していけたらいいのではないかと思う。

委員 福島駅東口のマンションに引っ越したのをきっかけに、大人1台車を持っていた生活から、家族1台の生活にした。高齢者の運転免許証返納の問題に焦点があたっているが、高齢者になってから車のない生活をするのはたぶん無理であり、若い世代が車を手放しても、楽しく生きていけるまちであれば、最終的には高齢になっても同じ生活が維持できる。

オリンピック・パラリンピックの関係もまさにそのときである。実は、古関裕而記念館・福島市音楽堂に100円バス（市内循環もりんバス）では行けない、先日、市民プールで小学生の大会があったが、市民プールにもバスでは行けない、それでは選手で車がない人はどうするのといった話があった。最低でも拠点は繋いでもらいたいとの思いがある。オリンピック・パラリンピックやエールで観光客がくるということを考えると、少なくとも観光客が集まってみんなが集える場所については、これをきっかけに交通機関を充実させていただきたい。イベントが終わっても、市民を支える基盤作りになるので、その後を支えるような投資をしていただければと思う。

交通機関についても、高齢者視点ではなく若い人の視点で、車のない社会に移行していく緩やかな段階をイメージしていただければいいかと思う。

ノーカーデーという言葉もあまり聞かれなくなってきたが、一人ひとりがそういったことを意識すると、実は福島というまちは、ほとんどのものが網羅されていて、車を手放しても生活しやすいと実感している。ただ、まちなかに出てくるまでがすごく苦しいので、まちなかからどうするかということと、まちなかにどう人を呼び込むのか。一つはいろんなタクシーというものもあるかと思うが、割と鉄道がある。ただ、鉄道の駅自体に駐車場がない、福島市以外の周辺の駅が使いにくい状態になっているので、歩いて行ける人しか鉄道が使えないと印象もあ

る。福島市以外の各駅をどのようにアクセスをよくしていくかという視点だと、もう少し短距離でいろいろな工夫ができると思う。この辺りは、どうしてもお金もかかってくる事業になってくるので、財政的なところを見ると、取捨選択が難しいと思うが、長い目で見たときに、将来的に残る財産になる可能性があるので、長期的な視点で軸にして見ていけると、いろんな人が住みやすく、集いやすい、繋がりがやすいまちになっていくと思う。

議 長 その他いかがですか。

委 員 今回の交通の話は、コンパクトシティという視点で取り組めば、人口規模からして非常に取り組みやすい、相対的な力が必要になってくるものだと思う。私も賛同したい。

まちづくりは雇用創出だといつも思っており、働ける場がないとやはり出て行ってしまったり、教育も雇用創出が大切で、まちのなかでお金が循環している状況をいかに作って、経済活性化させるかということにみんなで取り組まないと、人口流出を防ぐことができないのではと思っている。

また、教育について、せっかく企業を誘致したり、大企業が拠点を移しても、子どもと奥さんは置いてくるというパターンをよく聞く。全国的に見ても、教育は充実しているようだが、実はなかなか数字が上がってこない文化や教育の向上が、やはりまちの魅力の一つ、または住みやすい、住みたいという基準に大きく影響するので、将来構想等では文言が問われると思うが、雇用創出、教育の大切さ、文化の向上をポイントに皆さんと共有できればと考えている。

議 長 私は経済・ビジネスの専門であり、人生は金を稼ぐことであると同時に、金を使うことである。福島は金を使う文化、施設があまりない。金を稼ぐことはもちろん大切だが、それを使うことによりまちが活性化していく。福島で金を稼いで、金を使うのは仙台や東京というのが今の現状という気がする。

議 長 その他いかがですか。

委 員 18歳人口が4,400名、福島県から流出している。福島市・県で稼いだお金を、親が首都圏や仙台に投資している。子どもが帰ってくればいいが、ほぼ帰ってこない。就職先は労働条件のいいところに入っていく。一生懸命に稼いで、子どもに投資した結果が、自分のところに何ももたらさないという現実をいつも突き付けられている。なので、福島市に依頼し、プラットフォームを形成した。市内に5つも大学があるというところは、県内見渡してもない。5つの大学が産

官学連携して、何とか、少しでも地元の高校生を地元の大学に残そうとやっている。決して行くなと言っているわけではなく、残りたい子が安心して学べる場を提供しようと取り組ませていただいているが、出生率同様、なかなか数値が上がりず苦労している。お金を稼いだものをどう地元にと落とすかという発想が根本的にあるので、プラットフォームも支援していただければと思う。

議長 その他いかがですか。

委員 福島市で生まれ、ここで育った人たちが大人になる。私は別なところで暮らしていて、福島に来た方からよく言われるのが、このまちは東京、仙台、郡山と比べて自分にとっては住みやすいという方も結構いる。その理由を聞くと、いいあんばいだと言っている。仙台は確かに賑やかで活気があるが、疲れる。若い人も同様に感じている。そういう意味からすると、福島はそんなにエネルギーを使わなくともいい。

医療機関や福島県立医科大学が福島駅前に開設する等している。東京でもそれらが郊外から都内に戻ってきている。それは、利用する人にとって、毎日のことのなかで非常に重要だということを意味している。

年齢が高くなると交通機関の問題は切実であるが、それと同じように若い人も含めて、福島が他から来た人からいいあんばいと言われるために、これから10年先の都市をどういうふうにするのか、やりようによってはもっと魅力があって、他から来た方からも評価され、住んでいる人がもっとよくなるのではと感じている。

これは行政だけではできないし、大学、市民、経済界等目的を一つにして取り組んでいけば、ポテンシャルが上がるのではないかと思う。

東京、仙台と比べてもまったく意味がないと思う。人口の面で追いつこうとしてもあり得ない話である。

Yu-Me (ゆめ) 会議もいいことであると感じている。言いつ放しにならない形で具体的なものができればいいと思う。

議長 その他いかがですか。

議長 先程、コンパクトシティという話があったが、JRの駅をいかにハブ的に使って活用するという問題がある。二本松市の安達駅は、かつては何もない駅だったが、今は非常に発展している。きっかけは、旧道があり、そこにホームセンターやスーパーがあるが、その奥に復興公営住宅ができた。その復興公営住宅はマンション式だが、セキスイが開発して民間の一戸建てやマンション的なものを作っ



ており、人口も増えていて、小学校が、キャパシティーが足りないくらいになっている。非常に便利であり、ほぼほぼ生活するのに必要なものがある。二本松の人に言わせると、飲み屋等の娯楽がないとのこと。一つの典型として、JRの駅を軸にしていろいろなことができると、JRの運行本数も増える。マイカーが必要な部分もあるが、せっきゃくJRがあるのだから、JRの駅をいかに使うかが一つ大きな課題だと思う。

議 長 その他いかがですか。

議 長 今日の話はいくつかポイントがあった。一つは、高齢者免許証の返納の問題も含めて交通の問題。あと、働きやすさ、子育て等女性の問題。その辺が今日の話の中心だったと思う。

市民が参加する、当事者意識を持ってという話がアドバイザーからもあった。案外今の若者は当事者意識がなくて、いろんなことを自分事として考えないという風潮がある。少なくともYu-Me（ゆめ）会議の参加者は、まだ当事者意識、市民としての意識があっというのかなと印象を受けた。

その辺も含めて行政だけではなく、市民、特に若者、若者が夢を持って暮らしていけるように、年寄りの知恵でうまくまちづくりをしてあげたいと思う。

議 長 それでは、意見がないようなので、本日の議論はこの辺で終了とさせていただきます。次回はどんな内容で進めるというものがありましたら、説明願います。

事務局 こちらからある程度情報を出させていただいたので、次回は皆さんの議論を中心に進めていただきたい。「将来構想」と「基本方針」の案を作るような形になるので、それに向けた議論をしていただき、次のステップに生かしていければと考えている。

議 長 具体的な進め方については事前に打合せをさせていただきたいと思う。また、事前に配布できる資料があれば、配布したいと思う。

#### (4) その他

事務局 第3回懇談会の日程について説明。

- ・日 時 令和元年11月14日（木） 午後2時～
- ・会 場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室

本日の懇談会の議論を踏まえ、委員から意見等があれば、9月30日（月）までに事務局宛て送付するよう依頼。

(5) 閉会